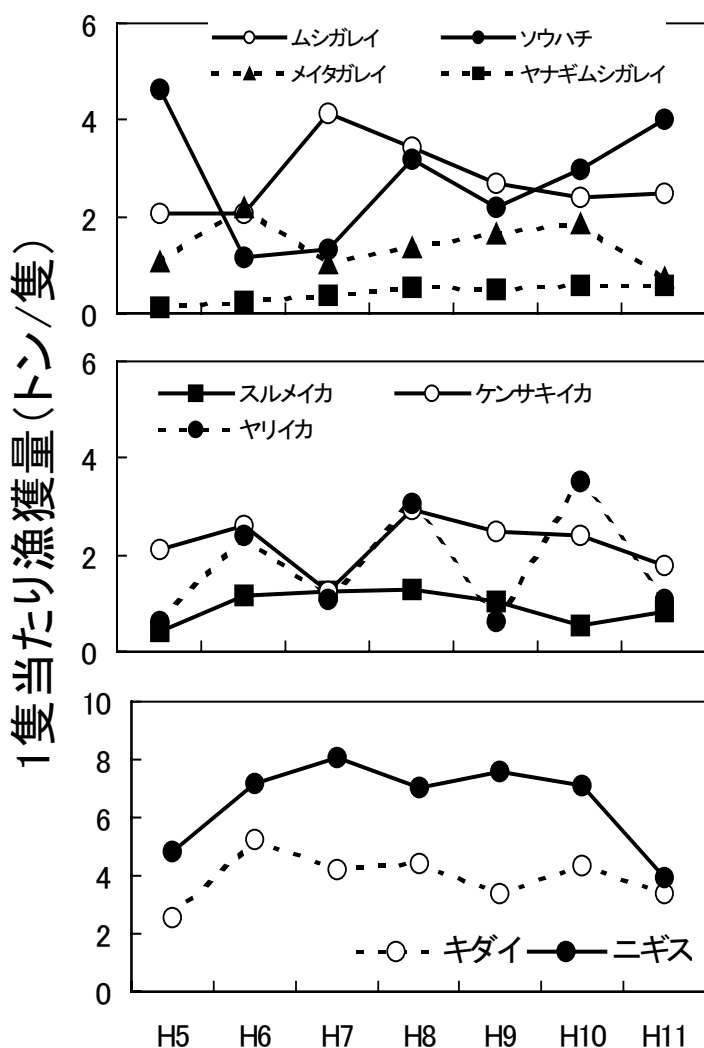


《平成 11 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (第 1 種)

島根県の小型底びき網漁業 (かけまわし) 61 隻*の平成 11 年漁期前半 (平成 11 年 9 月 1 日~12 月 31 日) の総漁獲量は 2,144 トン、総水揚げ金額は 10 億 5,535 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 35.2 トン/隻、水揚げ金額は 1,730 万円/隻で、漁獲量・金額とも前年および平年を下回りました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 63 隻ですが、統計は 61 隻分の集計です。



ソウハチ好調！メイタガレイ不振

近年増加傾向を示しているソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 4.0 トン/隻で前漁期を 33% 上回り、平成 5 年漁期に次ぐ高い値となりました。特に、11,12 月には 100 トン前後のまとまった漁が見られました。

ムシガレイ、ヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.5 トン/隻、0.6 トン/隻で前漁期並みの水揚げとなりました。一方、近年増加傾向にあったメイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.8 トン/隻で前漁期の 40% に留まっています。例年、特に休漁明けの 9 月にまとまった漁が見られますが、今漁期は低調に推移し、前漁期の 53% に留まりました。

イカ類不振！

近年、資源的に高水準であったケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 1.8 トン/隻でした。9,10 月にまとまった漁が見られましたが、前漁期を 26% 下回りました。また前漁期好調だったヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 1.1 トン/隻で前漁期を 70% 下回りました。近年は 1 年おきに好不漁を繰り返す傾向にあり、今漁期は不漁年に当たるものと推測されます。ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 3.9 トン/隻で前漁期を大幅に下回り、平成 5 年漁期以降最低の水揚げとなりました。キダイの 1 隻当たり漁獲量は 3.4 トン/隻で前漁期を 23% 下回りましたが、期間を通して安定した水揚げがありました。

図1 島根県小型底びき網漁業における主要魚種漁獲量の経年変化。

この他、アンコウの 1 隻当たり漁獲量は 2.6 トン/隻で前漁期を 12%、平年を 43% 上回り、平成 5 年漁期以降、最高の水揚げとなりました。

小底主漁場における 2 月上旬の水深 100m の水温は平年を 1~2 上回っている状況にあります。近年、3 月以降にカレイ類・キダイなどがまとまって漁獲されており、今後の動向が注目されます。

沖合底びき網漁業

◆ 県西部

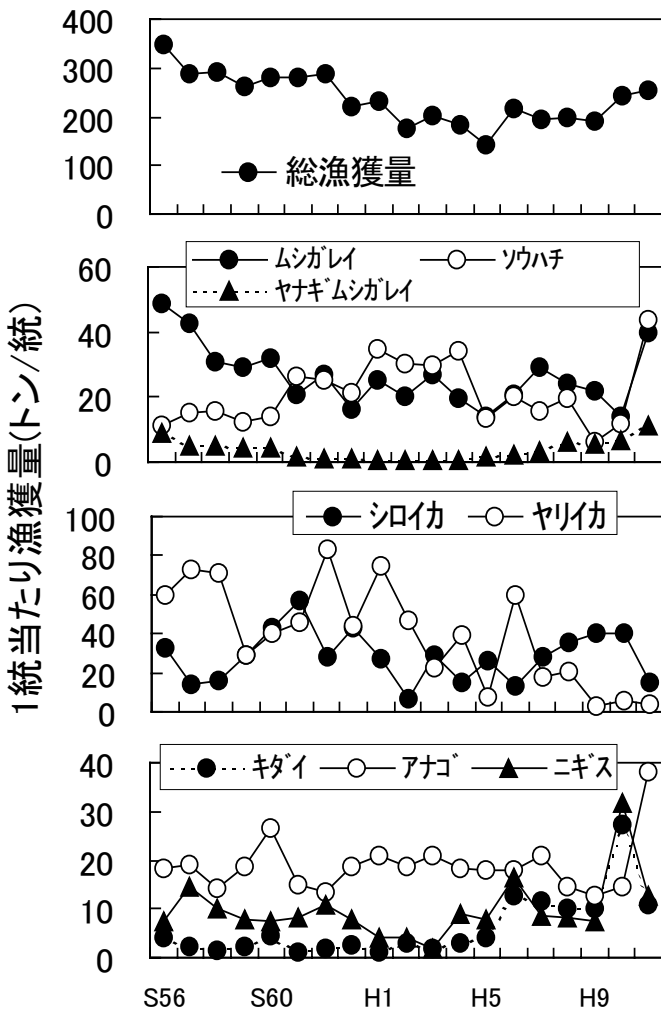


図2 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種漁獲量の経年変化。

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(6ヶ統)の平成11年漁期前半(平成11年8月15日~12月31日)の総漁獲量は1,520トン、総水揚げ金額は9億2,130万円でした。また、1統当たりの漁獲量は253トン、水揚げ金額は1億5,355万円で、量・金額とも前年および平年を上回り、水揚げ金額は昭和56年以降最高の値となりました。

ソウハチ・ヤナギムシガレイ過去最高!

ムシガレイの1統当たり漁獲量は39.9トン/統で前漁期の2.9倍、平年の1.6倍の水揚げがあり、昭和56,57年に次ぐ高い値となりました。ソウハチの1統当たり漁獲量は43.8トン/統で前漁期の3.7倍、平年の2.2倍の水揚げがありました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は11.3トン/統で前漁期の1.7倍、平年の3.4倍の水揚げがあり、ソウハチ、ヤナギムシガレイは昭和56年以降最高の水揚げとなりました。今漁期は、ムシガレイが8~10月、ソウハチが9月、ヤナギムシガレイが10~12月にまとまった漁が見られ、カレイ類全体としても近年最高の水揚げとなりました。

イカ類不振

近年好調であったケンサキイカの1統当たり漁獲量は14.9トン/統で前漁期の37%に留まりました。

特に9,10月の漁獲量が前漁期の半分以下であり、近年好調であった秋の漁獲が低調に推移しました。また、ヤリイカの1統当たり漁獲量は3.9トン/統で平成9年に次ぐ低い値となりました。

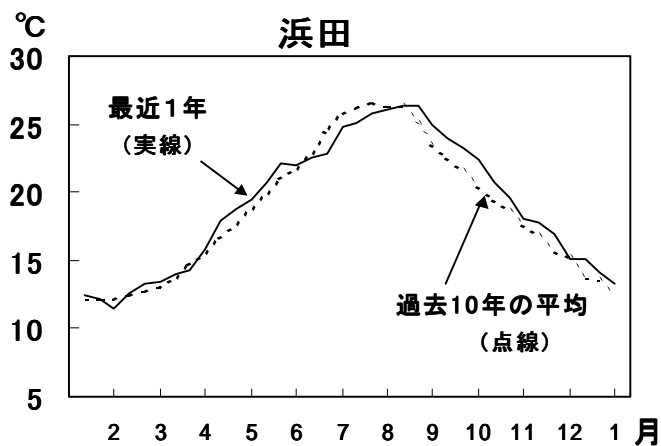
キダイ・ニギス急減、アナゴ過去最高!

前漁期好調であったキダイ、ニギスの1統当たり漁獲量は10.7トン/統、12.5トン/統で前漁期を大きく下回り、前漁期の40%に留まりました。一方、10~12月にかけてまとまった水揚げのあったアナゴの1統当たり漁獲量は38.0トン/統で、前漁期の2.6倍、平年の2.1倍であり、昭和56年以降最高の水揚げとなりました。この他、アンコウ、アカムツ、マダイで平年を上回る水揚げがあり(1.6~2倍)、浜田港を基地とする沖合底びき網漁業の今漁期前半は好調に推移し、平成に入り最高の水揚げとなりました。

◆ 県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業(4ヶ統)の平成11年漁期前半の総漁獲量は755トン、総水揚げ金額は4億5千万円で量・金額とも前漁期および平年を下回りました。漁期前半はヤナギムシガレイ、キダイ中心の水揚げでした。ヤナギムシガレイ、ソウハチは平年の3~2.6倍、ニギス、アンコウ、アカムツは平年の1.4~1.3倍の水揚げがありました。一方、マコガレイ(平年比18%)は平年を大きく下回りました。この他、ウマズラハギ、メイトガレイは平年の36~48%に留まっています。

《 1月の海況 》



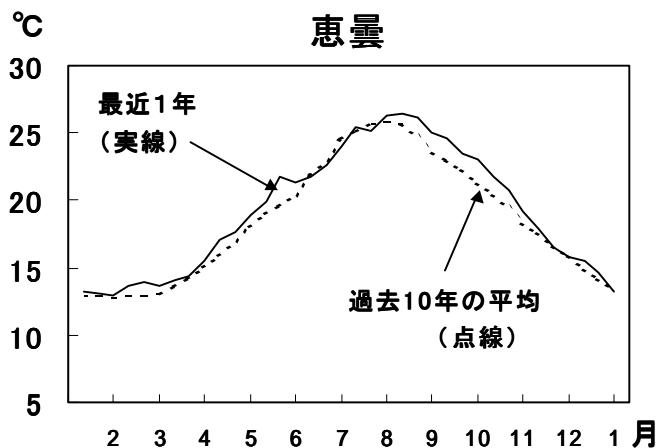
定地水温

1月	月平均	平年差	評価
浜田	14.2	+1.0	やや高め
恵曇	14.5	+0.2	平年並み

1月の水温は、前月に比べ浜田で約2.4、恵曇で約2.2 下降し、浜田・恵曇ともに平年より「やや高め」の水温経過となりました。

また、島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果(2月上旬)によりますと、山陰海域の水温はほぼ全域で上・中・下層の各層で「平年並み」～平年より「やや高め」となっていました。

下層の水温に注目すると日御碕の西方5マイルおよび隠岐諸島の北北西30マイルに冷水域が張り出していました。また、隠岐諸島の北西60マイルには暖水域が見られました。



《 1月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は554トンで、前年の95%、平年の10%とほぼ前年並みであったものの、平年に比べ低調に推移しました。水揚げ金額は、3,700万円で前年の84%となりました。漁獲の主体はマサバ、マアジ、サワラでした。また、恵曇ではカタクチイワシ、マアジを主体に311トンの漁獲があり、前年の190%と好調でしたが、金額はマサバ・マアジの不振が影響し、870万円で前年の49%と低調でした。浦郷ではカタクチイワシ、マアジ、マサバを主体に漁獲量936トン、水揚げ金額6,700万円と、量・金額とも前年をやや下回りました。

【イカ釣り漁業】

浜田の地元小型イカ釣り船は出漁していないため、スルメイカ・ケンサキイカの漁獲はありませんでした。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、スルメイカ(20入り主体)の漁獲が1,493箱で、前年の6%、平年の4%と非常に低調に推移しました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はスルメイカを中心に9.9トンで、前年の33%と低調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は290トン、水揚げ金額は1億3,350万円でした。また1統当たり漁獲量は48.3トン、水揚げ金額は2,225万円であり、量・金額とも平年を下回りました。魚種別で見ると、ニギス、キダイ、ケンサキイカ、ムシガレイが好調に推移し、平年の7～1.1倍の水揚げがありました。

恵曇港の総漁獲量は118トン、水揚げ金額は8,700万円で、量・金額とも平年を下回りました。アカガレイ、ソウハチがまとまって漁獲され始め、平年の1.3倍の水揚げがあり、本格的なシーズンを迎えました。

【小型底びき網漁業】

和江漁協における1航海当たりの漁獲量は528kg、水揚げ金額は30万円で漁獲量は前年を下回りましたが、水揚げ金額は前年並みの水揚げとなりました。アンコウ（前年比：1.5倍）、ムシガレイ、アナゴ・ハモ類（前年比1.7倍）が好調に推移しました。この他、ヒラメが前年の2.5倍の水揚げがありました。

大田市漁協における1航海当たりの漁獲量は399kg、水揚げ金額は25万円で量・金額とも前年を大きく下回りました。盛漁期を迎えたソウハチが漁獲の中心ですが、ムシガレイ、ニギス、アナゴ・ハモ類、アンコウもまとまった水揚げが見られました。

【定置網漁業】

各地区とも全般に水揚げは低調で、漁獲量は前月の半分程度まで落ち込んでいます。隠岐地区と県東部ではサンマの水揚げが目立っています。県東部ではこれにカワハギ類とスルメイカが、隠岐地区ではマアジとスルメイカが加わっています。県西部ではブリが水揚げの主体となっており、漁獲量、水揚げ金額は前月を下回ったものの、前年同月は大幅に上回りました。

【釣・縄】

例年ならこの時期ほとんど漁獲されないヨコワ（クロマグロ）やヒラマサが漁獲されています。また、出漁日数が大幅に増え、沿岸の釣・縄はこの時期としては比較的好調な漁模様となっています。浜田はブリ類（ブリ・ヒラマサ・カンパチ）、アマダイを主体に漁獲量16.1トン、水揚げ金額1,460万円と、量・金額ともに平年を大きく上回りました。五十猛はブリ類、カサゴ類、ヨコワ主体で、漁獲量9.8トン、水揚げ金額580万円と量・金額ともに平年を上回っています。

漁獲統計

平成 12年1月1日 ~ 31日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	30	マサバ・マアジ・サワラ	18.4ト	554ト
	恵曇	11	カタクチイワシ・マアジ	28.3ト	311ト
	浦郷	26	カタクチイワシ・マアジ・マサバ	36ト	936ト
イカ釣り	浜田(沖合)	12	スルメイカ	124箱	1,493箱
	浜田(沿岸)	0	なし	0箱	0箱
	西郷	87	スルメイカ	114.3kg	9.9ト
沖底	浜田	26	ソウハチ・ニギス	11.2ト	290ト
	恵曇	27	アカガレイ・ソウハチ	4.4ト	119ト
小底	和江	305	アンコウ・ソウハチ	528kg	161ト
	大田市	186	ソウハチ	399kg	74ト
定置網	浜田	21	ブリ・マアジ・ケンサキイカ	296kg	6.2ト
	恵曇	13	サンマ・スルメイカ・ケンサキイカ	288kg	3.7ト
	浦郷	23	マアジ・スルメイカ・サンマ	463kg	10.7ト
釣・縄	浜田	751	ブリ類・アマダイ	21.4kg	16.1ト
	五十猛	355	ブリ類・カサゴ類・ヨコワ	27.6kg	9.8ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。

先月号まで中型まき網の浦郷は大中型まき網のデータも含まれていましたが、今月号からは中型まき網だけのデータとなっています。